

平成16年度日本研究情報専門家研修

平成16年12月16日

赤澤久弥

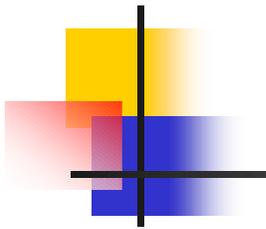
京都大学工学研究科・工学部電気系図書室

hakazawa@lib.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

「学術文献の入手の方法」

大学図書館における雑誌の収集

～ “ 紀要 ” をめぐって ～

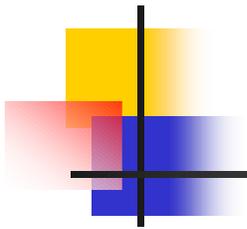


「大学紀要」とは

- 日本における「紀要」の成立から
明治以降、学術誌の機能が成熟しないまま、
学会誌と紀要が、同時に発達。
- 「各大学、学部、附属研究所などが、その大
学、学部、附属研究所の研究成果を収録し定
期的に刊行する論文集」
- 「日本の製紙業，印刷業，製本業を支える一
方，地球温暖化の原因とみられているが，内
部を見たものがないので真偽は不明」 (?!)

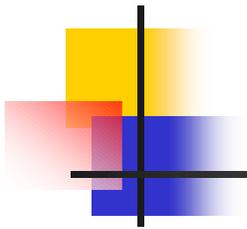
(新明解図書館情報学用語辞典

<http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/dic.html>)



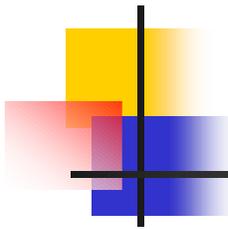
「大学紀要」の特徴（１）

- 基本的に非売品
→ 寄贈や交換による流通
- 一般に査読の基準が緩い
→ 多様な「質」



「大学紀要」の特徴（2）

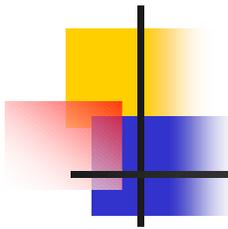
- 任意での刊行
→一般に発行期日やタイトル等が不安定
- 大学、学部などが発行単位
→収録主題の幅が広い
- 分野によって位置づけが違う
→人文・社会科学分野では、重要な
発表媒体



紀要収録論文の入手（１）

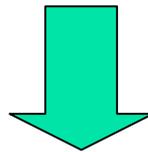
How can I find articles in “Daigaku kiyo”?

- 『雑誌記事索引』
- 特定分野の二次資料
『国文学論文目録データベース』
etc.
- 『学術雑誌目次速報データベース』
→ 『研究紀要ポータル』
→ 『CiNii：論文情報ナビゲータ』：
2004.8～



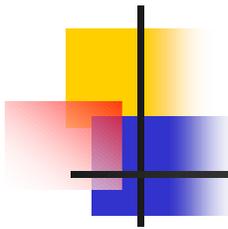
紀要収録論文の入手（2）

インターネットでの2次資料の公開



課題！

どこが1次資料の提供に責任をもつのか？



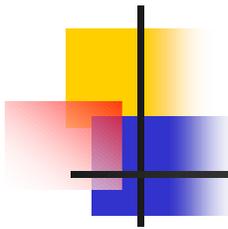
大学図書館と紀要：保存（１）

資料スペースの不足問題が深刻化

- 発行、受入タイトルの多さ
- 一方的に寄贈されるケース

課題！

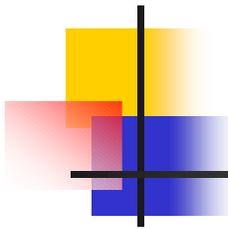
受入・保存基準がない。あっても不明確



大学図書館と紀要：保存（2）

受入・保存基準の例

- 保存するもの
 - ・ 自大学が発行する紀要
 - ・ 自大学の学部に関係する分野のもの
 - ・ 入手しにくいもの etc.
- 保存しないもの
 - ・ 自大学の学部の分野外のもの
 - ・ 短期大学発行紀要
 - ・ 一定の間、寄贈がないもの etc.



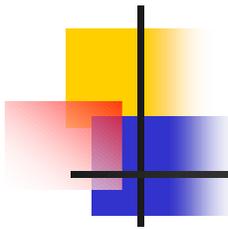
大学図書館と紀要：カタログ

- 「総称的タイトル」が多い
- 誌名の変遷が多い

例) 『愛媛大学紀要. 第一部, 人文科学』 ; 1巻1号 (昭25.11)-8巻1号 (昭37.10). → 『愛媛大学紀要. 第一部, 人文科学. Aシリーズ, 文学語学篇』 ; 9巻 (1963)-9巻 (1963). → 『愛媛大学紀要. 第一部, 人文科学. Aシリーズ, 文学・語学篇』 ; 10巻 (1964)-10巻 (1964). → 『愛媛大学紀要. 第一部, 人文科学. Aシリーズ, 語学・文学篇』 ; 11巻 (1965)-13巻 (昭42.12). → 『愛媛大学法文学部論集. 文学科編』 ; 1号 (1969)-31号 (1996). → 『愛媛大学法文学部論集. 人文学科編』 ; 1号 (1996)-.

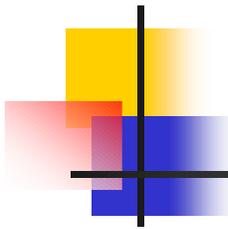
課題！

資料管理やスムーズな情報アクセスの障害



大学図書館と紀要：自大学紀要 (1)

- 自大学の紀要発行との関わり-従来の例-
 - a. 関わりはない
→編集・発送等は、教員・学部
事務室 など。図書館は、受入
をするのみ。
 - b. 発送など事務処理を図書館が行う

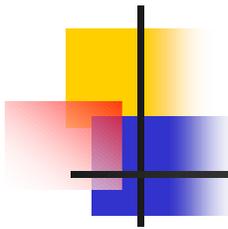


大学図書館と紀要：自大学紀要 (2)

- 自大学の紀要発行との関わり-近年の例 1 -
 - 『学術雑誌目次速報データベース』 : 1994~
自大学内で刊行する学術雑誌の
索引を図書館が共同して分担作成
→紀要情報の流通へのコミット

課題！

速報性

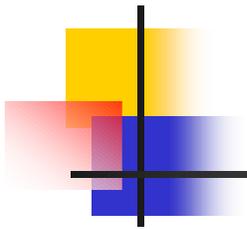


大学図書館と紀要：自大学紀要 (3)

- 自大学の紀要発行との関わり-近年の例2-
 - ・ 紀要の電子化と公開
日本でのインターネット普及と
「電子図書館」
→ただし、一部の大学のみ

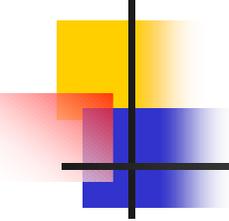
課題！

著作権処理（とくに過去発行分について）



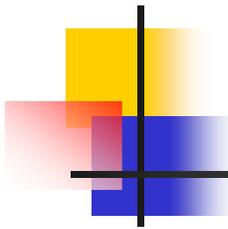
『CiNii : 論文情報ナビゲータ』

- 無料アクセス
- 紀要の目次・本文へのアクセスの一元化
- NIIによる大規模な遡及電子化 : 2002~
→ただし、継続は不透明



「情報発信」としての紀要と図書館

- 「紀要」をめぐる図書館の課題
 - ・ 保存、収集の基準
 - ・ ILLへの対応
- これからの「紀要」
 - ・ クオリティのありかた
- 大学図書館との新たな関係
 - ・ 機関レポジトリ etc.



参考文献

- 長谷川豊祐 「大学紀要の輪郭とその取り扱い」, 現代の図書館, 31(4), 1993
- 田中理恵 「紀要の取り扱いについて」, 逐次刊行物研究分科会報告, 52, 1993
- 「大学図書館における紀要の現状について」, 逐次刊行物研究分科会報告, 54, 1996
- 道祖尾京子 「紀要の電子化とその利用」, 逐次刊行物研究分科会報告, 57, 2000/2001
- 五十嵐由美子 「目次速報データベースから研究紀要ポータルへ：大学紀要が書架から消える日」, MediaNet, 11, 2004
- NII学術雑誌公開支援事業
<http://www.nii.ac.jp/nels/> (accessed: 2004.12.10)